京都帝國大學新聞
昭和十四年二月五日（日曜日）　京都帝國大學新聞　第二百九十二号（一）
月二回発行　（大正十四年四月十五日第三種郵便物認可）

積極的建設進捗

時局卽應の新講座開設

紀元節のよき日

皇軍慰問の葉書を

この一片に滿腔の赤誠を托し 全學擧つて發送の企て

長崎氏學生課長に

惜しまれる天野博士の辭任

〝南洋の鰻のタブー〟

古代社會の研究資料を獲て

時野谷・扇兩教授歸る

計報相踵ぐ

濱部源次郎教授

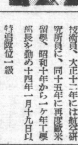
機械工學教室葬を執行

舟岡省五教授

獨逸自然科學會員に選ばる

アカデミー

服部助教授



濱田前總長を

偲ぶ記念事業

寄附總額は二月末日まで

全學によびかけ

地理學會を創立

綜合的研究めざして

西田幾多郎博士の

「日本文化の問題」

事年譜でパンフレット發行

本年度の

停年教授

道を横切ることに就いて

伊吹武彦

學の内外

座講題問アジア

全十二巻　豫約募集

問題は今や「支那をどうするか」でなく「どうしてアジアを再建するか」なのだ。本講座は問題解決の鍵だ！

アジアの歴史は今や未曾有の轉回を遂げつゝあり、日本國民は總力を擧げて「興亞の時代」への協力を要求せられつゝある。この重大期に當り、今日最も要求されてゐるのは支那と言はず大陸全體に對し、アジアそのものに對し、認識を深化し擴大することである。この要求に應へあらゆる困難を排して「アジア問題講座」（全十二巻）を刊行する。本講座はこの歴史的時期に際し、各方面に於ける權威と新鋭とが、それぞれ得意の項目をもつてアジア自身の根本に觸れ、その深刻な課題の究明を企てたものである。讀者はその透徹せる叙述を通して眼前の現實の全貌を明瞭に知悉し自己の識見を高め、確固たる使命の自覺に導かれるであらう。

この清新潑剌たる劃期的な講座こそ支那事變の歸結、アジアの明日に對して、眞摯な具體案と力强き暗示を與へるものである。全日本國民の熱烈なる御支援を期待する！

☆内容見本呈☆

色特の座講本

御申込みは速刻に！

實物全國書店にあり！

全十二巻内容

第一巻　政治・軍事篇（一）
第二巻　政治・軍事篇（二）
第三巻　政治・軍事篇（三）
第四巻　經濟・産業篇（一）
第五巻　經濟・産業篇（二）
第六巻　經濟・産業篇（三）
第七巻　民族・歴史篇（一）
第八巻　民族・歴史篇（二）
第九巻　社會・國防篇
第十巻　思想・文化篇（一）
第十一巻　思想・文化篇（二）
第十二巻　アジア人名辭典
綜合アジア年表

斯界の精鋭を集めた堂々たる編輯陣容！

今井登志喜　石田幹之助　波多野乾一
大西齋　和田清　橘樸
長岡克曉　柳田國男　宮澤俊義
森口繁治　尾崎秀實　小澤正元
田中香苗　木村重夫　木下半治
水野成夫

定價・體裁

第一回配本

政治・軍事篇2

内容

支那の民族統一戰線の展開

社元創

九〇七五番大替一通・開國百廿五年
五六五一番東京替振　東京市神田区神田錦町

「社會科學的技術」論

その問題史的把握とその最終課題

早瀬利雄

[illegible]

「國防國家」の性格

—歴史の現段階に於ける—

大西芳雄

[illegible]

革新は基から

佐藤信衛

[illegible]

全體主義者の實踐

○…ホルデーン・ビュースに關聯して

巴陵宣痴

[illegible]

東京帝大　河合榮治郎　教授　編

學生と讀書

十五版

何如にかいびらえを書るな何ぞ？
かきべす書讀にかい

學生と讀書人にとつて重大なるこの問題に、本書は明晰な解答と含蓄ある示唆を與へてゐる。出版物の氾濫と思想界の混沌に惱まされつゝある若き世代のために「書物の書物」として現れた本書の價値が如何に大なるかは、旬日にして一萬部を突破した實行が最も雄辯に語つてゐる。

序文……河合榮治郎
第一部　讀書の考察
讀書の意義……河合榮治郎
購書と藏書……山田珠樹
學生と圖書館……吹田順助
讀書の生理……杉田直樹
讀書と環境……岸田日出刀
如何に讀書すべきか……出隆
如何に書を讀むべきか……倉田百三
如何に讀書すべきか……三木清
如何に讀書すべきか……木村健康
第二部　讀書の回顧
阿部次郎　齋藤勇　長與善郎
井上政次　高木八尺　末川博
戸田武雄　小泉丹
第三部　讀書の資料
1　辭書　年鑑　年表　地圖　文獻目錄
2　叢書　全集　3　新聞　雜誌
4　必讀書目
附錄　統計にあらはれた現代學生の讀書傾向

六四頁　製本
五四頁　二色刷
〇〇・四一・　二圓　定價　料送

既刊の姉妹篇

各定價二圓四錢　送料十錢

學生と教養　十九版
學生と生活　十五版
學生と先哲　十版
學生と社會　八版

目錄進呈

東京市麹町二ノ四
寶文館六一九一
振替東京一六番

日本評論社

矢の倉書店・新刊

東京牛込矢來十一
振替東京一二七一九

第二高見順編　學生短篇集

全篇書下し

夏やすみ……森山啓
或る師弟……高木卓
青春の奇術……石川達三
高原の霧……石光葆
高校生……細田清人
荒無の梢……庫田重義
にがよもぎ……井上友一郎
殻の外……南川潤
鷲……荒木巍
秋の一頁……那須辰造
終止符……高見順

本書を推す　久米正雄

學生生活とはかうしたものだ、よかれ悪しかれその反映であるといふ時代の最も青春の眼に映る

京都帝國大學新聞　（日曜日）　第二百九十二號（三）
昭和十四年二月五日　（可認郵便物第三種）

新人間學の復興と
正統派純文學の進出
文學部卒論の表情

△哲學科＝「哲學」＝「人間學的哲學」＝「哲學概論」＝「哲學の根本問題」＝「哲學の諸問題」＝「哲學の諸問題」＝「哲學の諸

源氏物語の復興

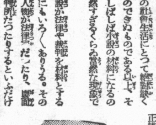
——鑑賞主義の誘惑——

近藤忠義

今度の戦争が始まつてからの事である。或る日の事、私は或る人から、「源氏物語」の講義をしてくれないかと頼まれた。その人は、「源氏物語」を読んでみたいが、一人では読めないから、誰か教へてくれる人はないかと言ふのであつた。

私は、「源氏物語」の講義をしてくれないかと頼まれた。その人は、「源氏物語」を読んでみたいが、一人では読めないから、誰か教へてくれる人はないかと言ふのであつた。

私は、「源氏物語」の講義をしてくれないかと頼まれた。その人は、「源氏物語」を読んでみたいが、一人では読めないから、誰か教へてくれる人はないかと言ふのであつた。



私の大学

逃避派

中村地平

法律の轍と法律小説

富澤有爲男氏の近著を讀む　富澤俊義

純單の〝郷愁〟

眞實の藝術から受ける感動が教養と學識を越えた人間的普遍性をもち、素朴な感動の方が藝術の本質に近いものである

土井虎賀壽

洋樂レコードの賣買なら必ず專門の當店へ！
クレモナ
河原町通夷川南入
電話㊤3023　振替937
リスト贈呈
高級版特に高價買入

カメラ名種小型活動在庫豊富
カメラ
品質優良用途自在
高價買入　御不特注即金
わかはや寫眞機店
京都市仲富小路・電本3924

藥は東山藥局

小山齒科醫院
東京齒科醫學士　小山正光
電話上五八二五番

新卒業生諸兄は……
この新聞をおよみ下さい
長谷日進堂
東京醫學專門部
電話上二九五番

皮膚科・性病科
醫學博士　伊佐早修治
佛光寺通寺町東入ル
電話下㊀三五七番

石田眼科
河原町今出川南電停前
電話（暫時午前診療）

古本高價買入
進文堂書店
京都市上京区丸太町通東洞院東入
電話（㊤）二八二三番

洗濯の設計施工
不動産賃借斡旋一般
京北社
京都市上京区寺町通今出川上ル
電話（㊤）五九七七番

白井直眼鏡店
京都帝國大學醫學部眼科部
京都府立醫大眼科部
日本赤十字社病院眼科部
京都逓信病院眼科部
御指定所
特許硬質鏡片　元寶寶レンズ發賣
電話㊤三二七九・三〇七〇
京都市上京区正親町通寺町西入ル

寫眞の御用は裏門——佐伯へ

丸善インキ　丸善墨汁
丸善スタンプインキ　丸善朱墨汁
丸善チェックインキ
日本のインキを代表する　丸善アテナインキ

いもん文
銃後のまごころを
故國の色と香と共に運ぶ
清鮮アテナ傳令使！
3オンス入　三〇セン
アテナ萬年筆
最寄りの店員さんでお求めください

京都帝國大學新聞　昭和十四年二月五日　（明治神宮奉祝會）　（第三種郵便物認可）　第二百九十二号　（五）

東大經濟學部の再建
總長の所信斷行に
純理革新十三氏憤然辭表提出

東大經濟學部の再建に關し、總長と學部教官との間に意見の對立を來してゐた問題は、去る一月二十八日の教授會に於て、總長の所信通り實行することに決定したが、これに對し、土方、大内、矢内原、脇村、大熊、上田、小島、山田、有澤、舞出長、中山、高橋の十三教授は、總長の所信實行は學部の學問的自由を侵すものであるとして、二月二日附を以て一齊に辭表を提出した。

學部抗爭の解剖

舞出部長自重を要望

山田教授辭表の辭

河合教授休職決定

再建計畫進捗か
講師制採用豫想さる

學部へ延燒
法學部
蠟山教授は語る

學生讀書館落成
多年の要望實現

學生層分列の危機
學外運動との聯携憂慮さる

總長絶對支持
出身高校別に會合
總長學部長に上申書手交

高校志願者數

四高文化運動
クラス研究會續々誕生

新刊書の共同購入
五高讀書會の新傾向

大破壞の跡……

戰爭は必ず大破壞を招來あたします
其後に來るものは建設あるのみです物心の總動員は必然であります、此の秋に際し弊店は斯ゆる難意を以つて滅私奉仕販賣を致してゐます
是非御來店の程を乞ふ……

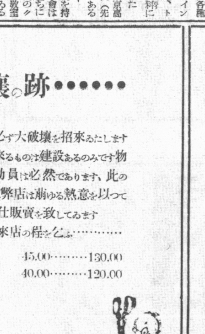
セビロ　45.00……130.00
オーバ　40.00……120.00

百嘉遍　上木堂洋服店　（電上3971）

耳鼻咽喉科
醫學博士　安野吉郎
中京區高倉通三條北
電話本局六一六二番

御卒業も眞近!!
惜別の一筆に
過ぎ去りゆく
ひととき
一献重ねての
語らいにて
永久の思出にならん
江戸前直送
美酌逸品
正宗ホール
電話本局一八三五番
麗園まとゐ館

寫眞の寫しから何でも
いつでも是非御利用下さい
上田寫眞器店
技術京都一
電話上京二七九一番



誌雜法公
轄編士博一也本々佳

新藥・調劑・醫科用品
東山藥局
熊野神社停留所前
電話上三140番

科學者の感情

高田保馬博士著「回想記」

大熊信行

カナダイイ氏の論説の日本語訳を読んだ。氏は三枚の原稿紙の上に、ほぼ三枚の論説を書いた。氏は初めの二枚を書き終えた時、ペンを置いて、暫くの間、考えに耽っていた。それから、氏は、三枚目の原稿紙を取り上げて、初めの二枚の論説を、ほとんど全部、書き直した。氏は、書き直した原稿を、もう一度、読み返して、更に、幾つかの字句を訂正した。

私は、氏の論説を、日本語に訳しながら、氏の苦心を、思いやった。氏は、日本の読者に、氏の感情を、正しく伝えようと、苦心したのである。

私は、氏の苦心を、思いやりながら、氏の論説を、訳した。

私は、氏の論説を、訳し終えた時、氏の苦心が、報いられたことを、感じた。

私は、氏の論説を、訳しながら、氏の感情を、日本の読者に、伝えようと、努めた。

私は、氏の論説を、訳しながら、氏の苦心を、思いやった